

## 生田緑地におけるスマレ属の記録

佐藤登喜子\*・矢澤昌子\*・高中健一郎\*\*

Record of *Viola* in Ikuta Ryokuchi Park, Kawasaki City.

Tokiko Sato\*, Masako Yazawa\* and Kenichiro Takanaka\*\*

## はじめに

生田緑地は、川崎市多摩区と宮前区にまたがる多摩丘陵の一角に位置し、クヌギ *Quercus acutissima* Carruth、コナラ *Q. serrata* Murray を中心とした雑木林や谷戸部の湿地、湧水等の自然環境が残されている。また、緑地の周辺は市街地に囲われており、緑地の利用者も多く、年間に約 80 万人が来園している。

一方で、神奈川県のスマレ属については、25 種が確認されており(神奈川県植物誌調査会, 2018)、川崎市ではスマレ属 19 種が確認されている(吉田ほか, 2016)。吉田ら(2016)によると、生田緑地では、2010 年以降に確認できた種として、スマレ属 16 種が報告されている。

今回、著者らは 2010 年以降に生田緑地で確認されていないエイザンスミレ *Viola eizanensis* (Makino) Makino を含む 17 種のスマレを確認した。都市公園では植物が盗掘の被害にあうことがあり(倉本, 1983; 大澤・勝野, 1999)、盗掘されたと思われる希少植物がインターネットで販売されていたことも報告されている(志賀ほか, 2013)。生田緑地でもこれまでに植物が盗掘の被害にあったこともある。今回確認した種の中には、盗掘の恐れがある種が含まれているため、生息地について詳細は記載せず、生田緑地での生息記録として、ここに報告する。

## 調査方法

調査は 2021 年 2 月から 5 月にかけて 10 回行い、生田緑地の全域を対象として、園路から確認できる範囲でスマレを調べた。

種の同定、学名および掲載順については、神奈川県植物誌 2018 (神奈川県植物誌調査会, 2018) に準じ、同定の際は、地上茎の有無、茎の生え方、根茎の形状、葉の色と形、托葉の形、花の色と形、花柄・葉柄の毛の有無、葉柄の翼の有無、側弁基部の毛の有無、雌蕊の形、距の色と形、花後の葉の形を確認

するとともに、生育地の環境も考慮した。

## 記録

アオイスミレ *Viola hondoensis* W.Becker & H.Boissieu

花期は、3 月中旬から下旬で、スマレの中で一番早く花を咲かせる。丘陵地のやや湿った林内に生えるが、生田緑地ではやや湿った園路脇に広い範囲で見られる(図 1)。根茎は横に這って株を増やし大きな株を作る。葉の展開と共に淡紫色の花を開き花茎は短くやや地味。花冠は直径約 1.5cm、葉は丸く毛があり、葉柄に開出毛があるのが特徴。花の後には葉は大きくなる。果実は葉の根元に付け、球形で白い毛がある。



図 1. アオイスミレ *Viola hondoensis* W.Becker & H.Boissieu

ニョイスミレ *V. verecunda* A.Gray var. *verecunda*

別名ツボスマレ。花期は 4 月から 5 月上旬で、スマレの中では遅く花を咲かせる。生田緑地ではやや湿った林内や、草地、路傍に広い範囲に群生が見られる(図 2)。花は花弁に紫色の筋の入った白色だが、スマレの中では一番小さい。花弁は 0.8~1cm で、距は短く、葉は心形で丸みがある。茎や葉は無毛である。地上に茎があり大きな株になる。

\*特定非営利活動法人 かわさき自然調査団

Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation

\*\*川崎市青少年科学館(かわさき<sup>そら</sup>と緑の科学館) Kawasaki Municipal Science Museum



図 2. ニョイスミレ *Viola verecunda* A.Gray var. *verecunda*

タチツボスミレ *V. grypoceras* A.Gray var. *grypoceras*

花期は3月下旬から5月上旬で、スミレの中で一番多く目につき、長い期間咲く。生田緑地全域どこにも見られ、個体数が多い。大きな群落を作っている所もある(図3)。花は薄紫色から濃紫色まで変化がある。花弁は1.2~1.5cm、距は6~8mm、葉は心形で、托葉がクシ状に切れ込むのが見分けのポイントになる。花の終わった後に茎が立ち上がり、大型になる。枝分れするのが特徴である。



図 3. タチツボスミレ *Viola grypoceras* A.Gray var. *grypoceras*

ニオイタチツボスミレ *V. obtusa* (Makino) Makino var. *obtusa*

花期は4月で、花には微かに芳香がある。生田緑地では日当たりの良い斜面など数か所で見られる(図4)。紫色の花を開くが、花芯が白く目立つ。花弁は丸く1.2~1.5cm、花柄にピロード状の毛がある。葉は円心形。茎は立ち上がり、花が終わった後茎を伸ば

す。タチツボスミレと似ているが花の色が濃いこと、花の中心が白いこと、托葉の違いなどで区別できる。



図 4. ニオイタチツボスミレ *Viola obtusa* (Makino) Makino var. *obtusa*

ヒゴスミレ *V. chaerophylloides* (Regel) W.Becker var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino

花期は4月で、日当たりの良い斜面に花を咲かせる。葉は基部の一点から5つに分かれ、さらに細かく分かれる。花は香りのある純白色、花弁は1.5~2cm(図5)。本来は山地の日当たりの良い草地や、林内に生えるが、生田緑地では日当たりの良い斜面やツツジの植え込みの中で見られる。神奈川県植物誌(2018)によると春先に栽培種が市販され、逸出品が市街地で見られるとあり、生田緑地の個体も逸出である可能性がある。



図 5. ヒゴスミレ *Viola chaerophylloides* (Regel) W.Becker var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino

エイザンスミレ *V. eizanensis* (Makino) Makino

別名エゾスミレ。花期は4月上旬で、葉はまず3全裂しさらに側葉が2裂する。花



が終わった後の葉は大きく伸び幅も広くなる。花は淡紅色で、花弁は2~2.5cm(図6)。距は太い。山地の落葉樹やスギ林などの林縁に生えているが、生田緑地では雑木林の路傍に生えている。



図 6. エイザンスミレ *Viola eizanensis* (Makino) Makino

マルバスミレ *V. keiskei* Miq.

花期は4月で、花弁が白く丸みのある花を咲かせる。花弁は1~1.4cm、距に紫色の斑点があり後方に膨らむ(図7)。葉が丸いことのでついた名前だが、葉の先がとがる。全体に毛が多いことから以前はケマルバスミレと呼ばれ、無毛のものをマルバスミレと呼ばれていたが、無毛品がないことから、マルバスミレと統一された。生田緑地内の園路の側や林内に数か所確認された



図 7. マルバスミレ *Viola keiskei* Miq.

ナガバノスミレサイシン *V. bissetii* Maxim.

花期は3月下旬で、淡紫色の花を一株に1~2個咲かせるが、開花期間も短い。花の大きさは約2cm、距は丸く、太く短い。葉が三角状長卵形長さ4~8cmあり、スミレの中



図 8. ナガバノスミレサイシン *Viola bissetii* Maxim.

では大きい(図8)。葉は厚く、濃緑色、葉裏は紫色を帯びる。花が終わった後に葉は大きくなる。咲かせる花の数が少なく、開花期も短いので花を見る機会が少ないが、生田緑地ではやや湿った林内、林縁に葉の群生が数か所で見られる。

アメリカスミレサイシン *V. sororia* Willd.

花期は4月で、北アメリカ原産の帰化植物であり、栽培されていたものが野生化し、繁殖力が旺盛で各地に逸出し分布を広げている。生田緑地では2か所で確認されている。個体数は多くない。青紫色で中心部の色が濃い物や、濃い紫色のものなど変化が多い(図9)。距は太く短い。葉は丸い心形で濃い緑色、地下茎は太くワサビ状である。



図 9. アメリカスミレサイシン *Viola sororia* Willd.

ヒメスミレ *V. inconspicua* Blume subsp. *nagasakiensis* (W.Becker) J.C.Wang & T.C.Huang

花期は3月下旬から4月で、全体に小型



のすみれで、市街地の人家の周辺、路傍、石垣、アスファルトの隙間などに生え、生田緑地でも見られる(図 10)。紫色の花を開く。側弁基部に毛がある。距は白色。葉身は細長く表面は濃緑色、裏面は淡緑色で、淵に鋸歯があり波打つ。



図 10. ヒメすみれ *Viola inconspicua* Blume subsp. *nagasakiensis* (W.Becker) J.C.Wang & T.C.Huang

ノジすみれ *V. yedoensis* Makino

花期は3月下旬から4月で、丘陵の日当たりの良い路傍や、市街地にも生える。生田緑地は2か所で確認されているが個体数は少ない。花は青みがかった濃い紫色で花弁の淵が波打つ(図 11)。花弁は長さ1~1.5cm、葉身は楕円状披針形で先がとがり長さ3~6cm、葉柄にわずかに翼がある。花柄や葉柄、葉身に微毛が密にある。



図 11. ノジすみれ *Viola yedoensis* Makino

アリアケすみれ *V. betonicifolia* Sm. var. *albescens* (Nakai) F.Maek. & T.Hashim.

花期は4月で、市街地の路傍や人家近くのやや湿ったところに生える。生田緑地で

は岡本太郎美術館の植え込みの中に確認された。花の色が白色から紅紫色までの変化を有明の空に見立て、名づけられたという。花弁の長さは1.5cm、距は太くやや短い(図 12)。葉身は長楕円披針形、葉柄に翼がある。葉を多く付け大きな株になる。



図 12. アリアケすみれ *Viola betonicifolia* Sm. var. *albescens* (Nakai) F.Maek. & T.Hashim.

すみれ *V. mandshurica* W.Becker var. *mandshurica*

花期は3月下旬から4月で、市街地の路傍や石垣、畑など日当たりの良いところに生える。生田緑地は入口近くの園路脇で確認したが、個体数が少ない。花は大きく濃い紫色、花弁の長さ1.2~1.7cm(図 13)。距は長さ5~7mm、葉身は三角状の披針形で葉柄に広い翼がある。葉は束生する。



図 13. すみれ *Viola mandshurica* W.Becker var. *mandshurica*

コスミレ *V. japonica* Langsd. ex Ging

花期は3月下旬から4月中旬で、丘陵地から市街地まで日当たりの良いところに広く生える。生田緑地では公園入口近くで見

られるが、年により開花場所を移動する。花は淡紫色から白っぽいものまで変化がある。花弁に紫色の筋があり、長さ1~1.5cm、距は細長い(図14)。葉身は長卵形で先がとがり、葉の色はやや薄緑色。裏面は薄紫色を帯びる。葉は数多く束生する。



図 14. コスミレ *Viola japonica* Langsd. ex Ging

アカネスミレ *V. phalacrocarpa* Maxim.

花期は3月下旬から4月で、丘陵の日当たりの良い林内、林縁、草地に生える。生田緑地では一地区に小群落をなしている。花は紅紫色で花弁の長さ1~1.3cm、紫色の筋があり、距は細長い(図15)。葉身は長さ2~4cm、幅2~3cmの狭卵型。葉、花柄、萼、子房、距に毛がある。



図 15. アカネスミレ *Viola phalacrocarpa* Maxim.

オカスミレ *V. phalacrocarpa* Maxim. form. *glaberrima* (W.Becker) F.Maek.

花期は3月から4月で、アカネスミレの変種であり、側弁基部に毛があるが、他はまったく毛がない(図16)。生田緑地ではアカ

ネスミレと同じところに混生している。



図 16. オカスミレ *Viola phalacrocarpa* Maxim. form. *glaberrima* (W.Becker) F.Maek.

シハイスミレ *V. violacea* Makino var. *violacea*

花期は3月下旬から4月上旬で、丘陵の日当たりの良い林内、林縁に生える。以前はマキノスミレと同定されていたが、神奈川県植物誌2018では、葉の幅が広く、花が葉よりはるかに上部で開花しており、開花時の写真からもシハイスミレの特徴を呈していることから、シハイスミレと同定変更された。神奈川県での生育地は生田緑地だけである。花は薄紅色、花弁の長さ0.8~1.2cm、距は細い(図17)。葉身は三角状狭卵形で1.5~5cm、小型のスミレで生田緑地では3地点で確認された。



図 17. シハイスミレ *Viola violacea* Makino var. *violacea*

## 謝辞

この度の報告にあたり、特定非営利活動法人かわさき自然調査団植物班の吉田多美枝氏、佐藤ミツ子氏、白澤光代氏、武久春美氏、谷口紀美代氏、田渕まこと氏、林美幸氏、



吉留憲子氏には調査にご協力をいただき、情報や写真のご提供をいただいた。また、青少年科学館職員の高橋裕氏には、スマレの情報をご提供いただいた。皆様には、ここに厚く感謝申し上げます。

## 引用文献

- 神奈川県植物誌調査会（編），2018. 神奈川県植物誌 2018. pp. 962-963, 神奈川県植物誌調査会・神奈川県立生命の星・地球博物館，小田原.
- 倉本 宣，1983. 都市公園における春植物ニリンソウ保全のための基礎的研究. 造園雑誌, 47 (5) : 101-105.
- 大澤啓志・勝野武彦，1999. 都市域の谷戸を活かした農的空間におけるレクリエーション利用実態と利用意識について. ランドスケープ研究, 63 (4) : 329-333.
- 志賀 隆・横川昌史・兼子伸吾・井鷲裕司，2013. 全個体遺伝子型解析データに基づく絶滅危惧水生植物シモツケコウホネ *Nuphar submersa* とナガレコウホネ *N. fluminalis* の市場流通株の種同定と産地特定. 保全生態学研究, 18 (1) : 33-44.
- 山田隆彦，2008. スマレハンドブック. 104 pp., 文一総合出版，東京.
- 吉田多美枝・佐藤登喜子・吉留憲子・佐崎藤子・佐藤ミツ子・白井美智子・白沢光代・武久春美・谷口紀美代・田渕まこと・林美幸・渡部富子，2016. 川崎の種子植物相. 川崎市自然環境調査報告 (VIII), 1-34. 川崎市教育委員会・特定非営利活動法人かわさき自然調査団.